

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『地域観光論—ドイツに学ぶ 産業観光活性化方策』

那須野育大著
学文社発行
2024年4月／2,310円（税込）
所蔵箇所：信濃町

本書は、観光まちづくりや地域政策などが専門の研究者（大阪産業大学准教授）が、①課題の抽出、②課題解決策の提示、③解決策の妥当性検討という3段階の分析に基づき、日本の産業観光活性化方策を提案したものである。

産業観光とは、様々な産業を対象とする観光利用形態であり、製造過程・技術・製品を対象とする。日本の産業観光には、①基礎的データを把握できていない、②運営体制が明確化されていない、③企業の収益性が考慮されていない、④観光客にトータルのサービスを提供できていないという課題がある。これらに対して、ドイツの事例分析を通じて公共主導の観点から①基礎的データを考慮したマーケティング、②多様な組織による持続可能なマネジメント、そして民間主導の観点から③小売部門と連携したマーケティング、④産業観光を軸とした地域の魅力向上という課題解決策を提示している。そして、Webアンケート調査を行い、課題解決策の妥当性を検討し、①能動的な観光客と支出意欲旺盛な観光客、②多様なサービスへの対応の必要性を明らかにしている。（古森）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『北陸鉄道 80 年史—1943–2023』

北陸鉄道企画開発部編
北陸鉄道発行
2023年12月
所蔵箇所：上野（一般公開中）

資料室の上野側の閲覧スペースには、鉄道業を中心とした交通関係企業・団体・組織の年史が壁一面に並んでいる。その一部は発行主体の企業・団体のご厚意により寄贈していただいたものだが、今回ご紹介するのは、そのうちの一冊である。

本書は、『北陸鉄道 50 年史』（1993 年）発行後の足跡を中心に記録した年史である。まず、30 年を 5 つのパートに分けてわが国と北陸鉄道グループの情勢を簡潔に記し、写真や図を織り交ぜて自動車・鉄道・関連事業における業績施策を分かりやすく紹介。たとえば、景気低迷や規制緩和に対応するための低コスト体質への転換や、新規需要開拓を目的とした路線の拡充、持続可能な地域鉄道を目指す取り組みを説明している。また、巻末の資料編には企業情報やバス・鉄道車両の諸元、路線図、年表などが収録されている。

資料室では、前述の年史とともに同社発行の『金沢市内電車 50 年のあゆみ』（1968 年）や『北陸鉄道の歩み』（1974 年）もあわせて展示している。ぜひご来室のうえ、他組織の年史も含めて手に取っていただきたいと思う。（田邊）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室 HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

